

<授業づくりのポイント6>

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

学習内容の定着を図る「振り返る活動」とは、授業のまとめの段階などに、何を（内容）、どのように考え（思考過程）、そこから何を理解し（意味）、何を見いだすことができたか（価値）を振り返る学習活動のことです。



◇「振り返る活動」の主な目的

「振り返る活動」を取り入れていくことで、自分にどのような知識・技能が身に付き、どのような思考力、判断力、表現力等が育ったのかを確認することができるようになります。これにより、今後の自己の学習に対して、「前の方法は使えないかな」「他の場面には使えないかな」などと、見通しを立てて考えることができるようになり、自主的に学ぶ態度が育成されることが期待できます。

【学習内容の確実な定着】

→ 子どもが何を学んだのか実感でき、本時の学習内容を確実に身に付けさせることができる。

【学習意欲の向上】

→ 自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次時への意欲を高めることができる。

◇「振り返る活動」を充実させるためのポイント

（1）学習内容の確実な定着

ア 本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。

<小学校5年理科板書例>

め 電じしゃくのはたらきを大きくするにはどうすればよいだろうか。

<予想>

- ・電池の数を増やす
- ・コイルのまき数を増やす

<実験>

整合性

<結果>

1班 2班 3班 4班 5班

<考察>

ま 電じしゃくのはたらきを大きくするには、電流を強くしたり導線のまき数を多くしたりすればよい。

めあてとまとめの文脈がつながるように意識すといいですね。



イ 学習内容を再生して確認したり、適用問題を解いたりしながら、学習内容を定着させる。

ウ 目指す子どもの姿を明確にした評価規準を学習過程に設定し、学習状況を多様な方法で評価する。評価結果に基づいて子どもの学習を支援したり、学習活動を変更・改善したり、指導方法を改善したりする。（形成的評価と補充指導）

（2）学習意欲の向上

ア 学習感想を書く際には変容をとらえる視点（できるようになったことや工夫したことなど）を明確に示し、よさや自分の成長を自覚させる。

イ 自己評価や相互評価を行う時期と方法を計画的に設定し、継続していくことで自己の変容や成長を自覚できるようにする。

ウ 発展的な内容を意図的に取り上げたり、まだ、解決されないことは何かを考えさせたりして次時への意欲付けを図る。

◇ 学習を振り返ることができるノート指導

ノートは、学習の足跡が残る大切なものです。学んだことを確実に身に付けるために、次のような指導をしてはどうでしょうか。



- 発達段階や教科等の特質を考慮して、共通理解に基づいたノートづくりの指導を行う。
- 色鉛筆やボールペン等の使い方を決める。また、消しゴムの使用を制限し、思考の過程を残させる。
- 意図的にノートを評価し、よい点を称賛する。問題点については具体的に改善点を示し励ます。

◇ 再生する場の設定

学んだ知識や技能を再生する場を設定することで、本時の学びが子ども一人一人のものになっているかを確認できます。各教科の学習内容に合わせて、書いたり話したり表現したりする活動を位置付けましょう。

理科の例

電磁石の働きを大きくする方法を隣の友達に一つ話してみよう。



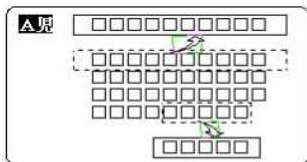
授業の終末で「何を学習したか」を明確に！！

<小学校2年 算数「ひき算のひっ算」 ※ 39-15の計算の場合>

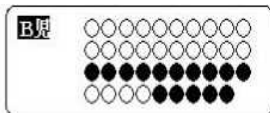
【本時のめあて】 2けた-2けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

【子どもの考えの例】

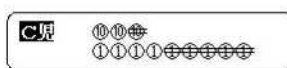
【ブロックで考えたA児】



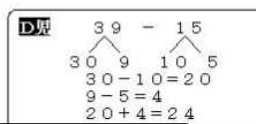
【図をかいて考えたB児】



【お金で考えたC児】



【式で考えたD児】



あなたの授業の終末を振り返ってみましょう。

教師が一つの考えでまとめていることはありませんか？

A～D児の考え方について共有と吟味を行った後で、
教師：Dさんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。どれも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、Dさんのように十の位と一の位に分けて計算するといいいね。

教師：(まとめを板書)「2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する」

教師：では、練習問題をやりましょう。(答え合わせをして、授業終了)

わたしの考え
じゃ、だめな
のかな？



学習内容の定着を図るまとめ方の例 (時間配分10分間程度)

A～D児の考え方について共有と吟味を行った後で、
教師：どの考えも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにDさんの考えが簡単にできそうだね。いつでもその考えが使えるか、Dさんの考えで「68-24」を解いてみよう。

→ 「類似問題を解く」適用問題、「別な手順で解く」適用問題
C児：なるほど、Dさんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するといいつでも簡単にできますね。

教師：2けた-2けたのひき算は？

全員：位ごとに分けて計算する。

教師：(まとめを板書)「2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する。」

教師：(学力調査の誤答例を提示して)では、この問題の解き方は、どこが違っているかな。

→ 「誤答を修正させる」適用問題
※ 実態によっては定着を図るために、「同じ手順で解く」適用問題も考えられる。

教師：今日の学習で分かったことやよかったことをノートに書きましょう。

B児：図をかくのは大変なので、これからは位ごとに分ける方法を使って計算しようと思いました。

教師：ところで、43-19のような計算はできるかな？

D児：あれ？位ごとに分けただけでは計算できない・・・。
よし、自主学习でやってみて、次の授業に備えよう。
(次時の課題へつなげて、授業終了)

まとめをする前に類題を解き、一般化を図りたい。また、類題を解くことで友達の考えに実際に触れ理解を深めさせたい。

児童の言葉を生かしながらまとめを行い、学習内容や自分の成長について振り返りをさせたい。

今日の学習がよく分かってうれしいな。次も楽しみな。



算数・数学

ねらいに合った適用問題を使い分けよう。

○「類似問題を解く」適用問題
→ 一般化を図りたい時などに
「この方法で別な問題も解けるかな」

○「同じ手順で解く」適用問題
→ 定着を図りたい時など
「数字が違って解けるかやってみよう」

○「誤答を修正させる」適用問題
→ 確かな理解につなげるために
「この解き方はどこが違っているの」

○「別な手順で解く」適用問題
→ 深い理解につなげるために
「友達の考えた手順で解いてみよう」